

TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム 第8期生紹介

※五十音順

【学生】

名前：石津 舞桜 (いしづ まお)
所属：高知県立大学 看護学部 看護学科
出身地：香川県 三豊市



プログラムを通して国内外の災害医療を学ぶことで、幅広い視野で日本の災害医療について考える力を身につけたいと考え、参加しました。私は災害医療に関する様々な活動に取り組むなかで、現地活動だけでなくロジスティクス活動や本部活動の重要性を感じ、災害医療のシステムに関心を持つようになりました。そして、災害医療のシステムについて学ぶうえで、日本に限らず海外の災害医療についても学び、柔軟な考え方ができるようになる必要があると考えました。プログラムでは、国内外の災害医療について学んだり同じ分野を目指している方々と意見交換をしたりするなかで、日本の災害医療のシステムについて改めて考えていきたいと思っています。

プログラムの内定通知を受け取ったときは、本当に嬉しかったです。参加を応援してくださっていた先生方や家族、友人にすぐに報告しました。以前から国内だけでなく海外の災害医療を学びたいと強く思っていました。私にとって海外の災害医療を学ぶことは言葉の壁があったり勉強するきっかけを見つけられなかったりとハードルが高く、思うように取り組むことができていませんでした。そのときに本プログラムの案内があり申し込むことを決めました。今回、このような貴重な機会をいただいたことに感謝し、多くの学びを得られるように精一杯頑張っていきたいと考えています。

名前：今井 佑理花 (いまい ゆりか)
所属：東北大学 医学部 保健学科 看護学専攻 ウィメンズヘルス周産期看護学分野
出身地：新潟県 新潟市



身近な人が宮城で東日本大震災の直後の混乱した状況の中で出産し、災害看護に関心を持ちました。全国各地の看護学生と共に国内外に視野を広げて学ぶこと、最先端の災害看護について知識を得られること、沢山のグループワークや発表機会がありリーダーシップ能力を高められることに惹かれプログラムへの参加を決めました。医療・看護の世界では日進月歩で発見や技術革新が行われます。災害時に看護師や助産師に必要とされるスキルをしっかりと学びたいです。私は自分が将来どのような形で日本の看護に携われるか決められていま

せん。プログラムを通し自分の強みを活かした災害看護への携わり方について考えを深め方向性を決めることが目標のひとつでもあります。また、私は大学でウィメンズヘルス周産期看護学分野に所属し女性や妊婦の健康について研究活動を行っています。プログラムを通して学んだことを研究活動にも活かしていきたいです。

内定通知を受け取った時は、「まさか自分が?!」という驚きもありました。しかし同時に、全国各地の看護学生と関わり、他県や海外まで足を運び、自分の目で見て耳で聞いて災害看護を学べることに大きな喜びと責任を感じました。参加者となったことに責任をしっかりと持ち、プログラムで医療従事者としての災害への関わり方について最大限のことを学んで、日々の大学生活や研究活動に還元していきたいと思います。今までの大学の授業・演習・実習で得てきた知識をしっかりと統合させてプログラムでの災害看護の学習に繋げていきたいです。私は大学1・2年生の頃には、カリフォルニア大学リバーサイド校とマラヤ大学にて海外研修を経験し、積極的にコミュニケーションをとり関係性を築くことの大切さや英語で伝えたいことを発信することの楽しさを実感してきました。未だに英語で会話することは不安もありますが、経験を活かして積極的な発言を心がけていきたいです。

名前：江島 つばさ（えしま つばさ）

所属：聖路加国際大学

出身地：大阪府 豊中市



国境なき医師団の活動を知ってから、災害看護に興味を持つようになりました。その中で、特に被災地や紛争地域で必要とされる看護師の存在や役割について知り、私は「災害が起きた時に、自分にできることは何だろうか」と考えるようになりました。そして、自分が看護師として活躍する場面においても、災害時には被災者や医療従事者が抱えるさまざまな問題に対応できるように、災害看護について深く学ぶことの重要性を感じました。プログラムに参加するにあたり、2つの目標を設定しています。1つ目は「災害時のメンタルケア」、2つ目は「医療現場でリーダーシップを発揮できる人材になること」です。友人が参加していて、いつか私も参加してみたいと思っていたプログラム、私も参加できることになり、とてもうれしいです。仲間とともに限られた時間の中で学びを共にし、たくさんの経験を得たいと思います！

あたり、2つの目標を設定しています。1つ目は「災害時のメンタルケア」、2つ目は「医療現場でリーダーシップを発揮できる人材になること」です。友人が参加していて、いつか私も参加してみたいと思っていたプログラム、私も参加できることになり、とてもうれしいです。仲間とともに限られた時間の中で学びを共にし、たくさんの経験を

災害看護の基礎教養から現地での学びまで、学校ではカリキュラムがなく、災害看護を学ぶことができない私にとっては嬉しい気持ちでいっぱいでした。メンバーに選出いただけたと同時に、私を選んでいただけた意味を考え、私にできることと私のグループでの役割をオリエンテーションまでに見出さなくてはと思いました。私は参加メンバーの中でも、看護を学び始めて2年目かつ最終学年、そして社会人経験もあり、すでに医療以外で学位を取得している、おもしろい経歴のメンバーだと考えています。過去の学びを活かしつつも、周りのメンバーからたくさんの知識と思考、パッションを得たいと思います。また、選んでいただけたからには、プ

プログラム終了後には、災害時における看護のあり方や知識を身に付け、日本の災害看護分野を牽引するリーダーとして活躍できるように目標を掲げます。

名前：木村 菜音（きむら なお）

所属：横浜市立大学 医学部 看護学科

出身地：神奈川県 横浜市



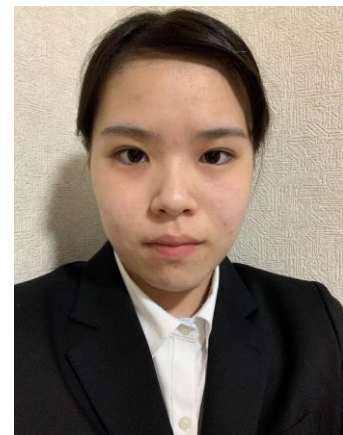
中高生の時に東日本大震災の被災地を2度訪問した経験から、災害に強く関心を持つようになりました。中高生の時には、住民の視点から被災体験や災害による地域への影響を考えることで、被災者の思いを理解し支援する難しさと必要性を学びました。看護学科の3年生となり基礎的な医療、看護の知識を学んでいる今、看護の視点から改めて災害を学びたいと思い、本プログラムへの参加を決めました。本プログラムでは災害看護の学問的な知識だけでなく、様々な体験学習を通じた実践の学びを得られることもとても魅力に感じています。プログラムを通じて、被災直後の緊急的な支援と復興期の継続的な支援における看護師の役割について学びたいと思っています。災害看護に興味を持っている仲間と積極的に意見を交わし、学びを深めて行きたいです。

内定通知のメールを確認した瞬間は、飛び跳ねるほど嬉しかったです。とても参加したかったプログラムだったので「本当に私がこのプログラムのメンバーに内定したのか？」と何度もメールを確認してしまいました。大学に入ってから二年間はオンライン中心の生活を送ってきましたが、本プログラムは今年から米国研修も対面で実施されるようになります。リアルで人と関わり学べる機会が持てることがとても楽しみです。これからどんな仲間に出会い、どんな学びを得ることができるのか今からワクワクしています。参加者に選んでいただいたからには、災害看護について学んだ知識や技術を自分だけのものにするのではなく、多くの人にプログラムでの学びを共有できるようにしたいと思っています。そのためには、仲間と積極的に意見を交わし、深い学びを得られるように努力したいです。

名前：熊谷 茉莉（くまがい まり）

所属：福島県立医科大学

出身地：東京都 調布市



東日本大震災が発生した当時に自分が何もできなかったことから、災害時に亡くなる人を減らしたいと思い、災害看護を大学や学生団体などで勉強してきました。その活動の中で被災者や医療従事者の話を聞くうちに、災害看護が“特別な看護”ではないことやその地域のコミュニティなどによって柔軟に対応することが必要であると学び、さまざまな地域の災害看護について勉強したい

と考え、応募しました。また、私は視野が狭いと考えているので、多様な考えを持った全国の看護学生だけでなく、医療従事者と災害看護についてともに考えることができることがとても魅力的に感じました。本プログラムを通してより多くのことを吸収するために、疑問点は残さないよう積極的に質問や発言をするとともに、経験を所属する大学や活動に伝えて今後の災害看護を発展させていけるよう務めたいです。

面接時に自分の考えをうまく伝えることができなかつたので、内定をいただいた時は本プログラムへの期待で溢れていましたが、準備をする中で選ばれた人間に値するように学ぼうという決意が変わりました。私は出身が東京なので、家族や友人を災害で亡くしたという経験はありません。しかし、経験がないからこそ主体的に災害について学ぶ必要があると考えているので、本プログラムの参加者として選出されたことに感謝するとともに責任を持って学ぼうと思います。将来医療従事者となった時に自信を持って災害看護を行えるように、災害看護を本プログラム中も終わった後も災害看護について勉強し続けたいと考えています。また、本プログラムを通して災害看護の発展につなげられるように、自分の研究テーマなどについても考えられたら良いと思います。

名前：縄野 晴香（なわの はるか）

所属：聖路加国際大学

出身地：埼玉県 さいたま市



小学生の時に東日本大震災を経験したことと、アメリカ合衆国のニュージャージー州の高校に通っていた経験から、同時多発テロが発生した際に建物から煙が登っているのが学校からも見えていたという先生の当時の話を聞き、災害は長い年月が経ってもその人の心に深く残り続けるものであると知った。このプログラムでは日本の宮城県と兵庫県での災害について学べるだけでなく、アメリカ合衆国での災害についても学ぶことができるところに魅力を感じた。災害の種類は大きく分けて自然災害と人為災害に分類することができるが、様々な災害について幅広く学ぶことができるプログラムに魅力を感じ、日本とアメリカの災害や災害対策の違いについて比較して考えることで、今後の災害対策に活かす方法を知ることができるのではないかと考えた。さらに、自然災害と人為災害による被災者の怒りや悲しみの感じ方も異なるのではないかと感じたため、実際に被災地を訪問することで、被災者の思いを傾聴することができる貴重な機会であると感じたため、被災者の思いを今後も受け継ぐ活動に繋がりたいと強く感じたため、このプログラムに是非参加したいと思った。

以前から災害看護に興味を持っており、災害看護ゼミナールを履修するなど大学の講義で実際に被災した方のお話を聞く機会を頂く中でより深く学びたいと考えていた。そこで大学からの本プログラムの案内があり、自分の学びたいことがたくさん含まれていることを知り、是非このプログラムに参加したいと思い応募した。実際に参加者として選ばれた際にはとても嬉し

く、学びある半年間にしたいと思った。今後は学校生活のみならず事前学習や現地訪問など忙しくなることに少し緊張しているが、日本全国から選出された看護学生や被災地訪問で会う人など多様な人と関わる貴重な機会となるため、一人ひとりとの出会いに感謝しながら活動をしていきたいと考えている。そして、本プログラムの参加動機である日本とアメリカの災害対策の違いや時間の経過とともに自然災害と人為災害の被災者の感情は変化するのかなどについて学んでいきたい。

名前：藤井 千夏（ふじい ちなつ）

所属：医療創生大学 国際看護学部 看護学科

出身地：埼玉県 和光市



私は医療創生大学 国際看護学部で、国際的な視点から看護を学んでいます。人種、宗教、文化、言語さえ異なる対象者への看護を学ぶなかで、異文化への理解をすることの大切さに気づかされました。それは災害時においても同様ではないかと考えています。私は東日本大地震以降、ボランティア活動を続けていることをきっかけに災害看護に興味を持ちました。世界のどこにでも起こりうる災害は、人々に恐怖を与えます。災害は、予測不可能です。ですが、どんな時にも私は目の前にある救える命を救いたい、看護師として心身に寄り添いたいと強く思っています。そのために災害看護の専門的な知識と技術、メンタルヘルスへの取組みを学び、海外医療・救護を実際に体験することで、より国際的な視野を広げていきたいです。さらに同じ志を持つメンバーとコミュニケーションを取り、意見交換をすることで他大学における教育の違いなどを学びたいと考えています。

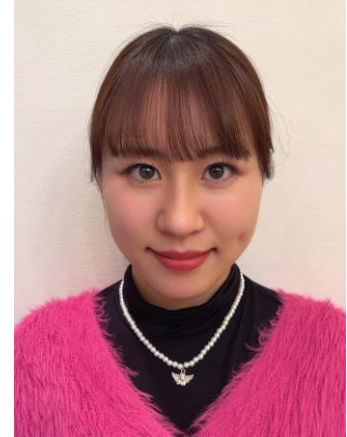
本プログラムの参加者として選出され、内定通知を受け取った時は嬉しいという気持ちでいっぱいでした。早く周りの人に伝えたいと、先生、両親、友人にすぐに連絡していたことを覚えています。本プログラムに参加できることは、榮譽であり自身の成長にとっても責任のあることだと思い、嬉しさとともに不安な気持ちにもなりました。研修中は、私に災害看護を学ぶ機会を与えてくださったことに感謝し、自身の最大限の努力をします。

さらに、本プログラムでの私の学びや経験を自身の成長につなげることはもちろん、研修中の学びを私の所属する大学に戻った時には、同学年の学生はもちろん、他学年の生徒にも経験したことを分かち合いたい、還元したいと考えています。

名前：古川 真帆（ふるかわ まほ）

所属：東京医科歯科大学 保健衛生学研究科 看護先進科学専攻
災害・クリティカルケア看護学分野

出身地：東京都 稲城市



私は、真に医療を必要としている人が必要な医療を受けることができる世の中にしたいという夢があります。授業や実習で、高齢化に伴う医療介護ニーズの急増や、医療現場の逼迫による救急車の受け入れ困難といった課題を学びました。私は、これらの課題を解消し医療を必要としている全ての人が医療を受けるためには、現在の日本の医療制度のままでは不十分で、新しい制度や仕組みづくりが必要だと考えます。そこで、このプログラムに参加して、遠隔診療や在宅医療の最前線に行く米国の医療システムや、ナースプラクティショナーを導入している米国の看護師の役割などを学びたいです。また、私は、「真に医療を必要としている人」について考えた際に、被災地と救急センターが真っ先に思い浮かびます。この研修で災害看護とクリティカルケア看護についても学び、一人の看護師として「真に医療を必要としている人」に手をさしのべられる知識と技術を身につけたいです。

内定通知を受け取った時、「実際に米国まで研修に行くことができるもの凄いプログラムへの参加が認められた！！」と大変嬉しく思い、参加するべきだと背中を押してくれた仲の良い同期へすぐに報告しました。同期たちも、「さすが、応援する！」「私も見習って活動的に頑張りたい」と話してくれて嬉しかったです。

高校生の時、「留学して海外で勉強したい」「行動力を活かして自主的に様々な活動に参加して充実した大学生活を送りたい」という思いがあり、受験校を決めました。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって留学どころかオンライン授業ばかりで、なかなか思い描いていた大学生活を送れていませんでした。やっと念願の海外研修に行ける機会を手に入れた今、全力で活動に取り組み誰よりも多くの学びを得ようとやる気に満ち溢れています。

名前：寶門大介（ほうもん だいすけ）

所属：宝塚大学 看護学部

出身地：兵庫県 宝塚市



私は今年大学で災害看護ゼミに参加し、そこでこの研修について知りました。災害看護に興味を持ったのは将来、看護師として被災者の救護をする立場となったときに、災害時のケアについて学んでおくことで、一人でも多くの被災者の救護につながるのではないかと考えたからです。大学の授業でも災害看護について触れましたが、その時の知識だけでは十分でないと感じ、この研修を通してより詳しく災害看護について学び、実際に災害が起きた際に自ら先頭に立

ち、被災者だけでなく医療者のケアもできるようになりたいと考え、参加しようと思いました。

今回、本研修に参加することが決まり、とても貴重な経験をさせてもらえると同時に災害看護について他の学生よりも知識は浅いと考えており、不安なことも多いです。しかし、せっかくの機会を無駄にしないように他の学生に遅れを取らないように知識を深めていきたいです。

参加者の内定が決まったという知らせが届いたときは何度も読み返すほどびっくりしました。しかし、同時に頑張ろうと思いました。正直、書類審査を通ったというお知らせを頂いた時点でびっくりしていました。なんせ全国から10名しか参加出来ないのも、書類審査を通ることも難しいのではないかと考えていました。当然、このような研修に参加したいと思う人は多く、募集人数に対してかなりの方々に応募したと思っています。その中には自分より学歴が優秀な人達や災害看護について詳しい方々など自分より優れた人達が多くおり、そういった人達から選ばれると思っていた。しかし、そのような人達ではなく、自分が書類審査を通り、面接試験を受けて参加者として内定を貰えたことはすごく驚いたと同時にそんな人達に遅れをとらないように頑張ろうと思いました。

名前：米山 真優（よねやま まゆ）

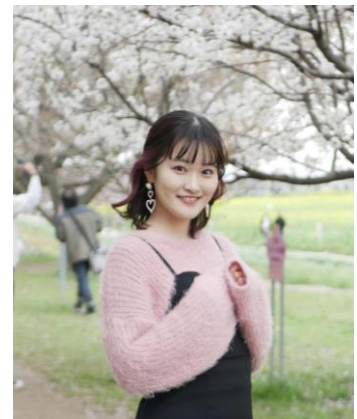
所属：東京医科大学 医学部 保健衛生学科 看護学専攻

出身地：パリ フランス

まず、米国の災害医療について学ぶことができるという点が魅力的であると感じたからです。米国にはテロを始めとした日本ではあまり馴染みのない災害が多く存在すると考えられるため、そうした災害時の対応を学ぶことで様々な災害に対応できる柔軟なスキルを身につけたいと考えています。また米国の災害医療を学び幅広い知識と多角的な視野を持つことで、災害医療における日本の課題は何か、そしてそれを解決し災害医療の基盤を強化するために看護職として何が出来るかを考察することができるとも考えています。

また私は将来海外協力隊として開発途上国に出向きたいと考えています。派遣先や業務内容は様々であるため、あらゆる業務に対応できるよう今から様々な経験を積んでいくことが大切であると私は考えています。そのため本プログラムに参加することで現地の医療従事者と積極的に関わり、国境の垣根を超えた連携を学びたいと考えています。

同じ大学で志望している人が複数おり自分が落とされるのではないかと考えていたため、選出されたと聞いてとても嬉しかったです。また書類は先輩にアドバイスを貰ったりと沢山時間をかけて書いたのも、その努力が実ってよかったなとホッとしました。そして本当に宮城や兵庫、アメリカに行って現地の方と交流しながら災害看護が学べるのだと実感が湧きとても楽しみになりました。今は、これから一緒に学んでいく仲間たちと関係性を築いていくことがとても楽しみです。せっかく10人の中に選んでいただいたらには、主体的に動いて沢山経験を積



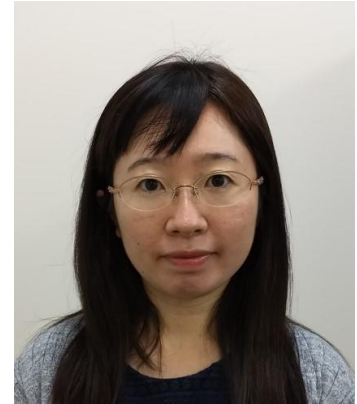
み、知識を蓄えながら周りのいいなと思ったことはどんどん吸収していきたいです。宜しくお願い致します。

【メンター】

名前：岩本 萌（いわもと めぐむ）

出身地：山口県 山口市

東日本大震災後の支援に保健師として携わった経験から、災害看護を学ぶ重要性を強く感じています。「将来の災害看護分野を牽引するリーダーを育成し、災害看護全体の基盤強化」を図ることを目指す TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラムの理念に心を惹かれ、何か私でもお手伝いできることがあればやらせていただきたいと思って参加を決めました。私自身も災害看護の学びの最中にありますので、まだまだ至らないところも多くあると思いますが、皆さんと一緒に学んでいければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。このプログラムが終わる頃に、充実した学びを得て、ステップアップした皆さんを見ることができるよう、可能な限りのお手伝ひをさせていただきたいと考えていますので、遠慮なくお声がけ&ご連絡いただけると嬉しいです。



メンター採用のご連絡をいただいた際に、真っ先に思ったのは、正直なところ喜びではなくて、「本当に私で良かったのだろうか、私でメンターの役割が上手く務まるのだろうか、もっと違う先生の方が参加者の皆さんのためになったのかもしれない」という不安の気持ちでした。これらの気持ちは、未だ心の中に残り続けているものの、今はせっかく採用いただけたのだから、「精一杯できる限りをやろう」という前向きな気持ちに変わりつつあります。私もまだまだ災害看護を学ぶ途上にありますので、参加者の皆さんと共に学び、楽しみ、時に一緒に悩みながら、こちらの研修に参加させていただけたらと思います。

名前：前中 夕紀（まえなか ゆうき）

出身地：兵庫県 宝塚市

本研修は1度きりの研修ではなく約半年かけて3部構成で行われ、各地で学びを広められるなど、将来災害看護分野を牽引するリーダーとなるために必要な技能と知識を身につけるプログラムとしてとても素晴らしいものだと感銘を受けました。そのようなプログラムにぜひメンターとして関わりたいと思い、2年前、TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム 2021 に応募しメンターとして参加しました。その際に本研修へ参加された学生の災害看護へ対する高い志を目の当たりにし、とても驚いたことを覚えています。しかし、



2021年度は全ての研修がオンラインとなりその様な志の高い学生の皆さんと直接会うことなく終わってしまったことが心残りでした。今年度より米国研修も再開となりましたし学生の皆さんとも直接お会いすることができます。限られた期間の中ではありますが皆さんと災害について語り合えることをとても楽しみにしています。

2年前にメンターとして参加した際に上記の様に心残りがありました。また、全てオンラインで行われた研修は対面で行う時とは異なり様々な困難がありました。しかし、そのよう中でも緻密に考えられた本研修プログラムが進行するにつれ、私自身も災害看護の奥深さ、楽しさに改めて気付かされるなど本研修の一ファンになっていました。昨年度より対面での研修が部分的に行われるようになるなど徐々にCOVID-19の制限が緩和され、それに伴い私自身も対面で行われたらどうなるんだとさらに興味が高まり気付けば昨年度の研修もメンターとして応募していました。結果は残念ながら選考には漏れてしまいましたが、諦めず今年度も応募し晴れてメンターとして選ばれましたので嬉しさや楽しみな気持ちでいっぱいです。しかし、ただ楽しむのではなく学生の皆さんにしっかり学ぶべきことは学んで、この研修を受けてよかったと思って終われるように精一杯支援していきたいと思えます。